

## 広島県新型コロナウイルス感染症対策専門員会議 提言

令和 3 年 8 月 2 4 日

## 1 患者発生動向及びステージ区分の評価について

- 参考指標である直近 1 週間の新規報告者数（人口 10 万対）は、8 月 23 日現在、県全体で 80.9 人とステージⅣの水準（25.0 人）を大きく上回っており、また、療養者数（人口 10 万対）が 90.6 人、入院率が 16.0%とステージⅣの水準にある。
- 7 月 31 日からの集中対策、8 月 20 日からのまん延防止等措置適用にもかかわらず、感染者数の急速な増加を考慮すると、ステージⅣと判断することは妥当である。
- 今後、流行のピークに遅れて、医療を必要とする方が増加することから、県民の命を守るため、新規患者の発生数を抑制していくことが最も重要である。

## 2 今後の感染拡大防止対策について

- 県民に対し、ワクチン接種の有無にかかわらず、最も重要な自身の感染防止対策の徹底を呼び掛け続けること、事業者に対しては、密を避ける、時差出勤、テレワークの最大限の実施を最近の例示を示しながら強く要請する必要がある。
- 今後は、夏休みが明け、家庭内で感染した子どもが保育施設や学校での感染源となりうるため、保育施設、学校での感染拡大には最も注意が必要である。保育施設、学校での感染予防・対応体制の確認と必要に応じた強化（学校医等との情報連携体制）を行うとともに、分散登校や臨時休業なども状況に応じて想定しておく必要がある。
- 保育園の休園や学校の休校が増加した場合、保護者が勤務困難となるケースが増え、多くの企業等で支障が出る。家庭にウイルスを持ち込まないという対策に加え、日々の健康状態の把握や、迅速に検査を受検する体制などを構築し、安全な勤務環境を維持するための方策の検討が必要である。
- ワクチン接種の加速は必須であり、これまでの対策に加え、特に保育園や学校の先生方への接種呼びかけを強化することも必要と考える。
- 今後の感染の更なる拡大に対応できるよう、全ての医療機関が新型コロナの診療に協力し、医療体制を強化することが不可欠である。
- 患者数の増加に伴い、宿泊施設の療養者や在宅療養者に対する外来診療の重要性が増加することから、市町、保健所、医療機関がどのように対応していくのか、地域ごとに急いで検討する必要がある。